

友達の中で少しでも安定した行動のできる子

前 島 要 次

はじめに

自閉的傾向と情緒障害を併せもつH児は、緊張場面等に出会うと物を投げる等のパニックをおこしてしまい、集団行動がとれなかった。昨年度は集団から離して担任との1対1の関わりの中でラポートをしっかりととり、1対1の作業を通して落ち着きをとりもどさせてきた。このH児が担任との信頼関係を保ちながら、運動・農園作業の場面で少しは友達と一緒に行動し、更に生活単元学習の中で、徐々に自分の力を出し参加するようになってきた経過について述べてみたい。

1. 対象児のプロフィール

(1) 生育歴

- S 50. 10. 29 生 14才、中学部2年生男子
- 定頸4か月、発歯6か月、歩き始め11か月
- S57に鳥取西病院で多動症候群、自閉的傾向と診断。
- 甘露保育園に3年、稲葉山小学校に1年在籍。
- S 58. 4 に本校小学部に転入学。

(2) H児の経過

小学部6年生の頃は、対人関係がかなり悪く、集団への参加が極めて困難な状態であった。又、母親の体の不調で学校を欠席しがちになり、学校での生活リズムを確立していく上で障害となっていた。昨年度は中学部に新入学し環境の変化に対応できず、連日、物を投げる、壊す、大声を出す等のパニック状態が続いた。まわりの友達への危害を心配して集団の中での指導をさけ1対1の指導を始めた。現在、図1からわかるように徐々に問題行動が減少し、学級集団から離れて生活すれば、落ち着いて生活できるところまできている。

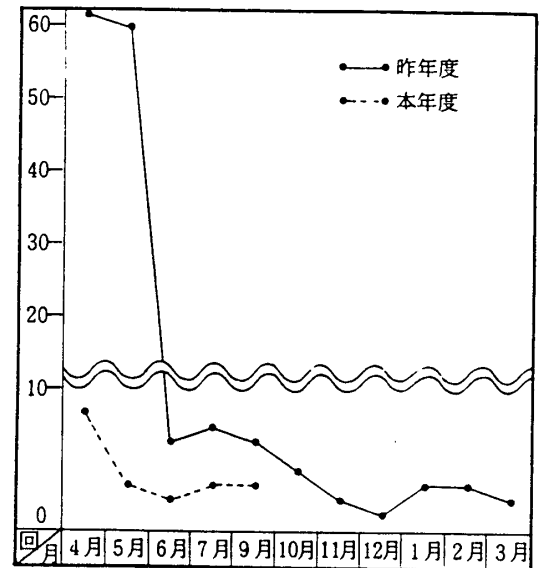
(3) 行動の様子

- 自分の気に入らない事、要求が制止されると情緒不安定になり、急に教室から走って出てしまう。物を投げる、壊すといったパニックはほとんどないが、大声を出したり机等をドンドンと叩いたりする。
- ハサミ、写真、小動物に異常興味を示す。よく学級のハサミ、掲示してある写真を勝手に持ち帰る。
- コーヒーが大好きであり、それをあげみにかんがり学習後には必ず要求する。
- 集団の中では、まわりの友達の腕をつねったり、急に自分の顔を友達に近づけたりすることがよくある。

2. 昨年度の指導方針と手立て

ラポートのとれた先生の指示に対しては素直に行動できること、落ち着いた状態であればかなりの認知能力があることに注目し、担任との1対1の関わりの中でH児のできる事をふやしていき、

パニックの様子



〔パニックの回数の変化〕 (図1)

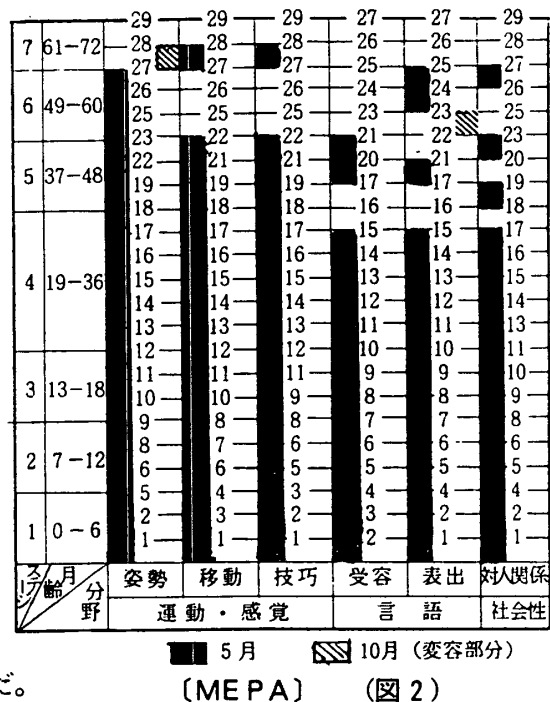
徐々に生活全般での安定を図るようにした。具体的には次のような方法で取り組んできた。

o1 対1の指導	—— 本児に対する要求や指示を最小限にする。本児の行動を可能な限り許容し、パニックが起こっても常に受容的態度で接する。(レポートを育てる)
o1 対1の作業	—— 牛乳パックを利用した和紙作りに1年間、継続して取り組ませていく中で、学習の意識化と学校での生活リズムの確立を目指す。(少しずつがんばらせる)
o朝の活動と行事	—— H児がまわりの友達との関わりを広げ深める場として、朝の会、体力づくり、単元への参加 行事単元の場を設定する。(集団参加への移行)

3. 本年度の指導方針と手立て

(1) 指導仮説

担任と1対1での指導から徐々に落ち着きを見せ始めたH児にとって、担任が見守る中でまわりの友達集団の中で、少しは友達に誘いかけたり一緒に行動したり、少々、我慢できないことがあっても担任の援助で、なんとかがんばろうとする力をつけさせ集団化を少しずつ目指したい。H児は図2からわかるように、運動面での能力が言語、社会性の分野に比べて高い。そこで、H児が好む運動面での取り組みに重点を置き、H児の活動欲求を満足させる中で友達との関わり、情緒的安定を図っていけば、社会性を少しずつ高めていけると考え、研究に取り組んだ。



(2) 指導の手立て

- ① 適切な援助や指示で力いっぱいからだを動かして、汗をかいた後の満足感を味わわせる。
- ② 小刻みの指示と援助でする事を指示し、H児にとって何をしたいかわからない状態をつくらない。
- ③ 担任が中に入って友達との関わりを、少しずつつけていくようにする。
- ④ できるだけ、いろいろな集団に入れて様子を見る。

4. 指導の実際

(1) サッカーによる実践

本単元は合同体育の中で1学期間、継続して取り組んだ単元である。この取り組みの中で、ドリブル、シュート等の単純な練習の繰り返しがH児の活動欲求を満すことができたと思う。又、集団でのプレーではボールにふれる機会は少なかったが、場を離れず友達の動きについていけるようになり、集団化を目指す上でも有効な単元であったと考える。次にその様子を述べる。

目 標	手 立 て	本 児 の 様 子
<ul style="list-style-type: none"> 先生の指示でボールをけり追いかける。 (昨年度はけりっぱなし) 友達と一緒に1対1のパスをする。 (昨年度は友達と向い合っても無感心。) ドリブルしながらシュート練習をする。 (昨年度は思い切りボールをけてしまい、うまく力の加減ができなかった。) 試合中に勝手にコートを離れないで、友達の動きについていく。 (昨年度はボールをけた後、ウロウロすることが多かった。) 	<ul style="list-style-type: none"> 先生と一緒に追いかける。 声かけをする。 H児と仲がよくボール操作が上手にできる生徒を相手にする。 シュートをする位置をH児に示してやり、繰り返し練習をさせる。 試合中、声かけを多くし、友達の中で何をすればよいかを明確にしてやる。 勝手に場を離れた時、すぐに後を追いかけて、必ず理由を聞き試合にかえす。 	<ul style="list-style-type: none"> 大体、指示通りにできたが気がのらないと、すぐには追いかけれなかった。 力の加減がうまくできず時々、カー杯けってしまうが、声かけによりパスの意識が徐々に見えてきた。 最初はドリブルのままボールをゴールへ入れてしまったが、シュート位置を明確にし声かけをすることで一連の動作が、徐々に身についてきた。 試合になると、どうしても積極的にボールにさわろうとする姿は多く見られなかった。しかし、試合を重ねる中で友達の動きについてこうとしていた。



〔ボールを追いかけるH児〕



〔試合をするH児〕

(2) 水泳による実践

6月下旬～9月上旬までの体育は、水泳に重点を置いた。その中でH児には技術面で抵抗を与え、それを乗り越えさせ、できた時の喜びやからだを思う存分につかいきった時の満足感を味わわせたいと考え取り組んだ。主な内容とH児の変容は次の通りである。

取り組み当初の様子	9月上旬(プール納め近く)の様子
<ul style="list-style-type: none"> 更衣室で着替えをすますと、廊下をウロウロとした。 シャワーをあびると早くプールに入りたくなり勝手にプールの中に入ってしまふことがあった。 先生の指示でビート板を使ってパタ足をさせたが、目を離すと止まってしまうがちであった。 手のかき方を教え練習させたが、うまくできないと、表情がかたくなり練習を続けようとしないうことがあった。 息つきなしの面かぶりクロールを、プールの縦を利用して5往復することを目標とした。途中で「やめようか」と言って練習を中断することがあった。 少々、調子の悪い時は、入水後プールサイドのまわりをウロウロしたり、勝手に校舎の中に入ってしまふことがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> 更衣をすませた後は、所定の場所で友達と一緒に待った。 シャワーをあびると自分の所属する班の友達と一緒に座って、プールに入るまでおとなしくできた。 最初の指示を出ただけで、友達の練習の様子を見ながら、連続してパタ足をするようになった。 繰り返しの練習を通して、先生の言われたことを素直に聞き、手のかき方がうまくなるようになってきた。 先生が目も離していても、友達の後を追うようにして黙々と練習をし、目標の5往復を中断することなくできるようになった。 情緒が安定していない時でも、入水後は班の友達と一緒にプールサイドの所定の場所に座って待つことができた。

水泳学習を通して少々の技術的な抵抗でもなんとか乗り越えようとする姿、先生の目を気にしないで黙々と、泳ぐ姿、集団から離れることなく、じっと順番を待つ姿等が見られるようになった。



〔クロールで泳ぐH児〕

4. 考 察

上記の様子から運動学習を通した集団内での友達との良好な関わり方、自分のからだを思い切り動かしていこうとする積極的な姿、少々の気に入らないことがあっても乗り越えようとするふんばる力が、少しずつではあるが運動学習以外の場でもあらわれてきている。このことは農園作業、生活単元学習の中での学習の様子にも見られる。又、その落ち着きは図1のパニックの回数の変化に変容として表われ、からだの面では図2のMEP Aに示した変容として表われてきており、目指す子供像へと少しずつ近づけたのではないかと考えている。

農園作業の様子

昨年度は農園に出ても走り回り作業にならなかった。本年度は右の写真のように土を耕したり、重い肥料袋を運んだりジョロを持ち水道の所まで何往復もして水やりをし、作業面でもふんばる力が身につきだしてきている。



(土を耕しているH児)

生活単元学習の様子

野外炊飯、臨海学校の学習の中で次のようなH児の姿が見られた。

野外炊飯の様子	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と一緒に木をとり何往復もして、ノコギリを使い多くのまきを作った。 ○太い丸太を途中で休憩しながら、友達と一緒に最後まで切り、一生懸命サンドペーパーをかけた。 ○野外でカレーをつくっている時、火の当番をきちんとした。 ○野外炊飯当日は、車から荷物を友達と一緒に所定の場所まで何回も運べた。 	臨海学校の様子	<ul style="list-style-type: none"> ○砂場の草とりを先生と一緒にし、とった草を集めて所定の場所まできちんと運べた。 ○砂の造形活動では、指示しないのに「コーヒーをつくる」と、パケツに水をくんで自分で掘った穴の中に何回も流し込んで楽しんでた。 ○校内宿泊学習では、友達と一緒にネコ車でまきを校庭まで運び、先生や友達と一緒にキャンプファイヤー用のまき組みをした。
---------	---	---------	---

この2つの生活単元学習の中でH児が自分の好きな事を見つけて熱中する姿、自分に割り当てられた仕事を友達と一緒に最後までなんとかやろうとする姿、汗をかきながらノコギリ等の道具を使用する姿、友達に声をかける姿等を見ることができた。

5. 今後の課題

集団内でも少しずつ落ち着きを見せ、学習の中でも積極的な姿が見られ始めてきたH児ではあるが、まだまだH児の心の動きをしっかりと読み、先手で対応していかなければいらいらしたり、集団にうちとけられなかったり、不安定な状態になりやすい。芽生え始めた安定と友達関係を今後も広げ深めていき、H児が集団の中で積極的に取り組んでいけるように、今後も本年度の指導方針を継続しながら、細かい配慮で心を読みとりながら取り組んでいきたいと考えている。